

京都大学教育研究振興財団助成事業 成 果 報 告 書

2025年 11月 28日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 工学研究科

職名・学年 博士後期課程3年

氏名 赤尾 拓海

助成の種類	令和7年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研究集会名	第78回アメリカ物理学会流体力学部門年次大会		
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待・ <input checked="" type="checkbox"/> 口頭・ <input type="checkbox"/> ポスター・ <input type="checkbox"/> その他()		
発表題目	Domain size effect on a temporally evolving stably stratified shear layer		
開催場所	アメリカ合衆国 ヒューストン		
渡航期間	2025年 11月 21日 ~ 2025年 11月 27日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度で作成し、添付して下さい。 「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000円	
	使用した助成金額	350,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費目	金額(円)
		航空運賃	205,040
		宿泊費	109,397
		滞在費	
		学会参加費	56,253
		その他	41,970
		以上に助成金を充当	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 助成いただいたお陰で渡航し学会に参加することができました。現地でも様々な研究者と交流でき、貴重な経験となりました。ご支援いただき、誠にありがとうございました。		

成果の概要／赤尾拓海

<研究集会の概要>

○研究集会名：第 78 回アメリカ物理学会流体力学部門年次大会

○発表題目：Domain size effect on a temporally evolving stably stratified shear layer

第 78 回アメリカ物理学会流体力学部門年次大会 (APS Division of Fluid Dynamics Annual Meeting 2025) は、今回で 78 回目を数える歴史ある国際会議である。流体力学を専門とする研究者が、全米各地のみならず世界各国から集い、活発に議論・交流を行う場となっている。規模も大きく、同時に 30 以上のセッションが併催されることもあり、参加者が短時間の発表ごとに慌ただしく会場間を移動している様子が印象的であった。本会議は毎年アメリカ各地で開催されており、本年はテキサス州ヒューストンにて開催された。

<発表内容の概要>

安定密度成層内に発生する超大規模構造の特性を調査するため、数値計算において計算領域の大きさを変えた複数の条件を設定し、その結果を比較した。超大規模構造は流れ方向に細長く、スパン方向に蛇行しながら複数並ぶ特性を持つ。流れ方向およびスパン方向に対して計算領域を変化させることで、この構造の生成が抑制されることや特性が変化することを確認した。これらの条件間で統計量を比較することで、本構造が流れ場に与える影響を評価し、明らかにした。質疑応答では著名な研究者からもご質問を頂いたほか、発表終了後には「非常に興味深い研究なので、ぜひ今後も続けてほしい」との言葉を頂き、日々の努力が報われたように感じた。

<謝辞>

航空券・宿泊費が高騰する中、本助成なくして本渡航および学会発表は実現し得ませんでした。このような著名な学会において自らの研究成果を発表し、国内外の研究者と

交流する貴重な機会を得られたことに、心より感謝申し上げます。改めまして、貴財団の助成に採択いただき、多大なご支援を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。



写真：学会会場および発表の様子